首・肩こりに対する
鍼灸(師)の専門性の提示

―経済損失や仕事能率改善と筋硬度の変化について―

講師 **粕谷大智先生**
東京大学附属病院
リハビリテーション部
鍼灸部門　主任

ハイブリット形式のセミナーです。状況によりオンラインのみの開催に変更となります。その場合、ご希望の方は、会場のスクリーンでもご視聴いただけます。

日　時

2021年11月23日 (火・祝日)
13時～16時 (12時30分～受付)

※Web視聴は当日の中継のみで、後日の録画配信はありません。

参加費

共催団体会員	１，０００円
学生	１，０００円
一般	３，０００円

会　場

新潟県鍼灸マッサージ会館3階　新潟市中央区幸西1-3-5
(駐車場は有りません。近隣の駐車場をご利用下さい。)

申込先

https://forms.gle/BsJe5j7q2cVooj829

先着８０名限定

右上のQRコードからもお申込みください。
ＱＲコードをお使い頂けない場合は、新潟県鍼灸師会事務局（TEL/FAX 025-260-4270）へFAXにてお申込み下さい。☆申込締切11月13日㈯

主催　(公社)新潟県鍼灸師会(一社)新潟県鍼灸マッサージ師会

粕谷 大智（かすや だいち）先生

「首・肩に対する鍼灸(師)の専門性の提示」講演内容

「あ～肩こった！」はコロナ禍の中で、自宅や職場での長時間のデスクワーク、せわしない家事、スマホなどによる悪い姿勢など、日常生活の中で肩こりを引き起こす要因はたくさん潜んでます。

最近は、肩こりで経済損失（仕事の能率低下や休職）が3兆円との報告もあります。

従来から肩こり・首の痛みは、鍼灸マッサージの適応であり、臨床上治療する頻度は高く効果も認めています。しかし、鍼灸を施すことで、上記の「経済損失の軽減が得られる」「コロナ禍でストレス軽減」といったデータを我々は提示しているでしょうか？

また、我々の触診所見の診たてと実際の肩の筋肉の緊張の程度は相関するのか？それを検証している報告はあるのでしょうか？そして、首・肩こりに対して、鍼灸（師）こそ可能な専門性を提示できていますでしょうか？

今回の研修会は、この３点に集約して、鍼灸の専門性の提示、触診所見とエコー所見の筋硬度との関係、VDT症候群の方の仕事能率の変化について、データを提示しながら実技も行いたいと思います。

多分、このような観点からの研修会は、今まで無かったものと思います。

新潟の２団体共催の企画です。是非、ご興味ある方は参加して頂き、明日からの臨床に役立てて頂けたらと思います。